

日本気象学会臨時総会議事録

日時：昭和41年10月2日 13時05分～13時45分

場所：北海道大学理学部第2化学 C316 教室

出席通常会員92名，委任状総数 403名，計 495名

（開会直後参加者12名，委任状の遅着2名あり，従って合計509名となる）

須田理事より定款第33条によりこれより臨時総会を開くが，第38条により通常会員2009名の1/5の402名（委任状を含む）。同じく1/25の出席会員81名の条件は満たされ総会は成立することを報告し，次に第35条により議長は互選することとなっているが，賛成を得られれば神原大会委員長を議長に推したい旨を一同に計り，満場一致同氏と決定した。

議長：総会の議題として GARP 計画の推進を日本学術会議に申し入れる件を取りあげる。提案理由の説明を北岡理事におねがいたい。

北岡竜海（理事長代理）：計画の推進を日本学術会議に申し入れるために今日の総会が必要となった。国際科学連盟（ICSU）内に出来た大気科学委員会が今年の4月ジュネーブで GARP 計画の推進を取り決めた。

これの推進に伴う予算措置をせねばならない。学術会議の総会で取り決め，政府に働きかけて貰わねばならない。日本学術会議に申し入れるには日本の気象学研究者の総意として申し入れるのがよい。この研究計画を推進するための予算要求は国内委員会で検討中であるが，まだ具体的な案が出来ていない。しかし昭和43年度の予算要求に反映させるためには明年4月の学術会議の総会に間に合わせたい。本来は具体的計画も附して明年5月のこの学会の定期総会に計るべきだが，それでは間に合わないため臨時総会を開いて貰った訳である。細かいことは委員会に任せて貰うことにしてこの提案を取りあげるかどうかをこの臨時総会で決める必要がある。

GARP 計画ではさしあたり次の5項目が当面の研究課題としてとりあげられた。

- (1) 熱帯大気の研究，特に積雲対流と大規模な大気運動との相互作用
- (2) 地表，海面と大気の相互作用の研究
- (3) 全地球的な大気放射の分布に関する研究
- (4) 大気大循環の研究，特に数値モデルの開発，改良
- (5) 新しい気象測器，技術の開発

これらの5つの分科会に分け，1972年を目途として研

究計画を進めたい。計画の概要は以上のとおりであるが，この推進を日本学術会議に申し入れることについて会員の御賛同を得たい。なお国際科学連盟の大気科学委員会に日本代表として出席された山本先生から補足説明して貰いたい。

山本義一：説明が充分だったので補足説明の必要はない。質問があればお答えする。

議長：本件について北岡理事の説明があったが御意見があればいい。

北川信一郎：全面的に賛成であるが，5つの項目にも一つ「地球と上層の電荷交換」の項目を付け加えてほしい。

堀内剛二：どういう詳細な計画をつけて学術会議に手続きをするのか。

山本義一：日本国内に国内委員会を作って案を練っている。明日の夜札幌で集り，委員会を開いて計画を練り，さらに10月11日から12日に集って第3次の計画を練りたい。7月以来数回集って検討したが，初年度に何をすべきかまで見当つた程度，1972年には IGY 観測と同じように国際的な協同観測を行うことをねらいとしている。まず1970年までに各国でやった研究結果を持ち寄って検討することに決めて，1971年は準備，1972年実施を予定している。早い国では昨年準備している。日本は1年発足が遅れた。多分今度勧告しても政府の予算のついたものは1968～1975年までの準備期間に費すことになるだろう。さしあたりこの3カ年の案を早急に作りたい。

窪田正八：大気物理研究所との関連はどうか。3年後にスタートする時に大気物理研究所も発足させるというようなことはどうか。

山本義一：設立を希望して気象学会の賛同を得，学術会議に申し入れているが，その後の進捗状況は意にまかせない。昨年学術会議は4つの研究所の設立を勧告したが，それとは別に文部省の中に委員会を設けて検討しており，その様子では同種類のものが20くらいひしめき合っている。文部省では勧告あるなしに拘らず一括してどうしようかと検討しているらしい。大気物理研究所設立準備委員会では東大の中に共同の研究所を設置するつもりだが，東大と設立準備委員会との意見はまだ一致した段階ではない。GARP との関係については私達は身勝

（408頁へ続く）